



宮 城 県  
現代俳句協会  
NEWS  
2021. 7 No.44



## コロナ禍と震災句集

坂下 遊馬  
(小熊座)

普通に生活することの有難さを痛感させられたこの一年半。未だコロナ禍の収束が見えません。未知のウイルス対策が困難を極めたとはいえ、ブレーキとアクセルを同時に踏むGOTOトラベル等の政策やワクチン接種の大幅な遅延など、対応が後手に回ったことは否めません。国の危機管理の脆弱さ、デジタル社会の遅れ、ワクチン開発や確保への対応など、コロナ禍により様々な問題点が顕在化しました。そして、今も東京オリンピック開催の是非が喧々囂々の状況です。そもそも、東京オリンピックは復興五輪を謳った大会でしたが、今では、コロナに打ち勝った証としての五輪に代わりました。ドナルド・キーンが生前、瀬戸内寂聴との対談の中で、「東北は復興の途中、非常に不愉快」とまで言っていた東京オリンピック。当時、労働力需給調整の仕事にかかわっていた私も、東京への労働力の流出が震災復興の遅れにつながったのではと思っています。

さて、今年の三月で東日本大震災から十年が経ちました。宮城県俳句協会では、この節目に「十年目の今、東日本大震災句集わたしの一句」を刊行しました。刊行に当たっては、全国の俳句関係団体県内外の俳句結社等の皆様にご協力をいただき、最終的な応募数は千八百八十三句に上りました。

応募者の特徴としては、初心者や被災者以外の方、高校生からも投句が寄せられたこと、地域別では、海外を含め全国にわたっていますが、死者数の多かった宮城県、原発事故のあった福島県、東京都からの応募数が全体の半数を占めたこと、年齢別では、十四歳から九十七歳と幅広ですが、六十代から八十代で全体の約八割を占めたことなどです。今回、改めて俳句人口の高齢化の現状や若い人たちへのアプローチの必要性を認識させられました。

また、コロナ禍の中、新たな句会のあり方が模索されるとともに、通信句会やオンライン句会等も実施されましたが、俳句の魅力は、場所と時間を共有する「座」であると思います。脈々と受け継がれてきた句会や吟行、袋回しなどの「座」の醍醐味は特別です。一日も早く、日常が取り戻されて、当たり前前に句会や吟行ができるよう願っています。

# 令和3年度 宮城県現代俳句協会総会

今年度の総会は、新型コロナウイルスによる感染予防の措置のため、三月二十日に予定していた、本会の総会の開催は取りやめ、書面による議決としました。会員総数九七名中五六名の承認を頂きました。

## 第一号議案 令和2年度 事業報告

- 1、研修・吟行句会  
新型コロナウイルス感染防止の為に中止。
- 2、第三四回現代俳句東北大会―令和二年九月二七日（青森市）  
新型コロナウイルス感染防止の為に、事前投句のみの俳句大会。
- 3、令和2年度総会  
新型コロナウイルス感染防止の為に、書面決議。
- 4、会報（四二、四三号）の発行（同年六、十二月）  
特集「新型コロナウイルスの蔓延する今を詠む」（七二名参加）。

## 第二号議案 令和2年度・令和3年度会計決算・監査報告

下記の通り。

## 第三号議案 令和3年度事業計画（案）

- 1、会報発行（宮城県現代俳句協会NEWS 44・45号）  
総会報告・吟行会、研修句会報告、新入会員紹介他。
- 2、吟行会予定 夏・春の年二回を予定。
- 3、研修句会 秋に実施予定。
- 4、定時総会 令和四年三月開催予定。
- 5、第三五回現代俳句東北大会  
令和三年九月二五日 盛岡市にて開催予定。

## 第四号議案 令和2年度予算案

下記の通り。

## 第五号議案 役員改選案

- 会長 渡辺誠一郎  
副会長 成田 一子、宮崎 哲  
幹事長 浅川 遊馬  
幹事 坂下 芳直、日下 節子、熊谷 山里、佐々木和子、  
鈴木 三山、関根 かな、高橋 彩子、中村 春、  
嶺岸さとし、吉沢 美香  
監事 小田島 渚  
監事 薦 とく子、丸山みづほ  
（顧問 高野ムツオ、鈴木八洲彦、中村孝史、浪山克彦）

## 令和3年度予算案

収入の部 (単位 円)			
科目	令和2年度決算額	令和3年度予算額	備考
前期繰越金	471,485	446,043	
地区助成金	167,400	167,000	
総会後句会参加費	0		
吟行会・研修会参加費	0		
雑収入	0		
合計	638,885	613,043	

  

支出の部			
科目	決算額	予算額	備考
総会費	0	15,000	会費費、総会後句会賞品
会報費	140,822	150,000	会報2回発行
負担金	0	10,000	東北大会負担金
通信費	34,848	15,000	総会吟行会等案内送付
事務費	10,460	5,000	インク、コピー、封筒等
吟行会・研修句会補助	0	15,000	賞品、懇親会補助
顕彰費	5,512	10,000	大崎俳句大会、盛岡市ジュニア俳句コンクール
交通費	1,200	25,000	役員の本年会参加、監査
予備費		368,043	
次期繰越金	446,043		
合計	638,885	613,043	

## 令和2年度収支決算書

収入の部 (単位 円)			
科目	予算額	決算額	
前期繰越金	471,485	471,485	
地区助成金	171,000	167,400	
総会後句会参加費	21,000	0	
吟行会・研修会参加費	21,000	0	
雑収入			
合計	684,485	638,885	

  

支出の部			
科目	予算額	決算額	
総会費	15,000	0	総会中止
会報費	150,000	140,822	会報2回発行
負担金	10,000	0	
通信費	15,000	34,848	はがき
事務費	5,000	10,460	インク、コピー、封筒等
吟行会・研修句会補助	15,000	0	
顕彰費	10,000	5,512	大崎俳句大会、
交通費	25,000	1,200	監査
予備費	439,485		
次期繰越金		446,043	
合計	684,485	638,885	

上記決算書の各項目に付き監査した結果、その内容は適正と認めます。

令和3年2月20日

監査氏名 丸山みづほ (印) 薦 とく子 (印)

## 座談会 『新型コロナウイルス以後の俳句』

令和三年四月十七日(土)、於ふれあいエスパ塩竈

パネリスト…坂下 遊馬(幹事長・小熊座)

成田 一子(副会長・滝主宰)

浅川 芳直(騎草・むじな代表)

アドバイザー…渡辺誠一郎(会長・小熊座)

司 会…小田島 渚(銀漢、小熊座)

### 一 新型コロナウイルス感染拡大から一年

小田島

東日本大震災から十年目を迎えた宮城県ですが、感染者が連日百人を超え、四月五日からまん延防止等重点措置の対象地域となっています。昨年四月七日に、はじめて国による緊急事態宣言が発令、十六日に全国に拡大されました。それから一年、俳句関係のイベントは軒並み中止となり、休止となる句会も多くありました。対面での句会を共にする場を失い続けていることを契機として、俳句の今と未来を考えたいと思います。

最初に、コロナ禍で、句会などどのような影響があったか、一年経過した今の状況をあわせてお聞かせください。成田さんは、主宰ならではのご苦労があったのではないかと思います。

成田

「滝」では、昨年は定例句会ができたのは五回です。普段は多い時だと五十名くらいですが、今は二十名いくかないかですね。吟行会や新年の祝賀会など全部なくなりました。月一、二回の各支部のミニ句会も参加者は少なくなっています。

そこで、昨年の四月から誌上句会を始めました。郵送でくる八十句ほどすべてに私が講評をつけて「滝」に載せるということで、十二回目を迎えます。その一番初めの講評をYouTubeで配信しました。滝会員以外の方もご覧になっているようです。誌上句会は、体調などで句会への参加が難しかった方にもすごく好評で、「滝」を読むのが楽しくなりましという反応もありました。主宰の声が届きやすいというのが魅の一つの魅力ですが、それができなくなつたので、添削指導も始めました。

ただ、句を作らなくなつたという方が若干います。句会が作るモチベ

ションになつていたので思いました。主宰として、対面の座の空間を提供できていないというもどかしさがあります。

小田島

誌上句会、YouTubeなどいち早く対応されただけでなく、新しい楽しみにまでなつたというのが素晴らしいですね。

昨年十一月刊行の「むじな2020」は、さらに充実した内容でしたが、代表の浅川さんは、むじなではどのような対策をされたのでしょうか。

浅川

むじなでも、オンラインシステムの句会を導入して、最初はすごく盛り上がりました。でも、いつものメンバーだけになっていきました。いずれ対面式句会に戻っていくのかなと思います。一方、この冬からオンライン授業で使われる掲示板システムを使って、作句のための互助会をはじめました。句会はちよつと……という人の受け皿にもなっています。

小田島

作句の場を新しく作られたわけですね。坂下さんはいかがですか。

坂下

私は、小熊座の句会に二つ入っていますが、五月の木の会では通信句会を行いました。私が皆さんから郵送で句を集めて、主宰にメールでお渡しして、句評を皆さんに返送するという方法です。高齢者が多いため、オンラインを使って句会するのは難しいです。その後は通常の句会に戻りましたが、参加者が少なくなりました。また、感染リスク低減のために教室形式となり、以前の句会らしさが損なわれています。

### 二 コロナ詠から見えてくる日常や想い

小田島

それぞれの工夫で、句会を保たれたという一年だったようですね。

今日は、コロナ詠三句、ご自身のコロナ詠があれば三句以内でお持ちいただきました。選ばれた理由や自解などお願ひいたします。ご自身の句作においてのコロナ禍の影響もお聞かせください。

坂下

私は、以下の三句です。

マスクしてしづかな国となりけり

松田 佳子

(第二十八回西東三鬼賞)

炎昼や何も触らぬ手を洗ひ

堤 宗春

(「俳句」十一月号)

朦朧と五月始まり風の音

米田 規子

(「現代俳句」五月号)

一句目は、コロナ禍でみながマスクをし静かになったということではな  
いと思います。日本では政治の劣化が言われていて、深刻な人口減少に伴  
う社会保障のあり方や原発、環境問題などについて議論を先延ばしにして  
います。社会に対する憤りをコロナ禍を通し、逆説的に問いかけているよ  
うに思います。

次の句ですが、この句は「手洗い」が題材だけで終わらず、何も触らな  
いのに手洗いが習慣となつていくことまでを捉えていて、諧謔性がありま  
す。三句目は、五月はとてもしよい季節なのに、今年は朦朧として始まつた、  
風の音しか聞こえてこないということですね。

小田島

宮城県は震災が三月にあり、朦朧と五月が始まるとなる震災のことも  
思い出してしまいますね。

坂下

そうですね。私は、震災の年の桜を覚えていないので、非常時の朦朧と  
いう感覚がよくわかります。

自分の句作に関しては特にコロナ禍の影響というのではありませんが、コ  
ロナ詠のような社会詠を読み続けることは非常に大事だと思つています。

九穴よりコロナウイルス水引く

坂下 遊馬

(「小熊座」七月号)

ウイルスの時代目高は生まれたて

同

(「小熊座」十月号)

くり返す疫病の世なり鱗雲

同

(「小熊座」十二月号)

一句目の九穴は、目や耳など人間の体にある九つの穴で、色んなところ  
から感染してしまう恐ろしさを詠みました。二句目の「ウイルスの時代」

は、ペストやスペイン風邪など過去だけでなくこれからもあります。しか  
し、どんな時代でも目高は旺盛な繁殖力で生まれてきます。三句目も同じ  
です。コロナ禍でも当たり前のように鱗雲が広がっています。

小田島

「コロナウイルス」などの言葉が入つていて、明確にコロナ禍を詠んで  
いることがわかる三句ですね。成田さんはいかがでしょう。

成田

私は、次の三句を選びました。

ウイルスか朧月夜の白き手か

谷口 加代

(「滝」六月号)

われらみな罪あるごとく夏マスク

岩岡 中正

(「阿蘇」八月号)

蛇苺つひに変容できぬ民

照井 翠

(「泥天使」)

一句目は、コロナ禍のメッセージ性はそんなにないのですが、漠然とし  
た不安感が現れていると思います。二句目は、とてもシンプルな作りで、  
非常時にあつて、「罪あるごとく」と岩岡さんの奥にあるキリスト的思想  
が出たのではないかと思います。照井さんの句は、〈墓だれか物いへ声か  
ぎり／楸郎〉と同じような加藤楸郎門らしい作り方です。私は、自分の言  
いたいことに季語をつけるというのはほとんどやらないのですが、こうい  
つたストレートなのはやはりいいなと思ひました。

浅川

蛇苺の句は、インパクトがありますね。オリンピックに関してもどこの  
政治家が「祈るしかない」と言つたり、言霊ですとか、すごく非合理的  
なことを日本人は信じて、人を差別したり、病気に對して間違つた理解の  
まま行動していることを思ひました。

小田島

その盲信めいた感じはわかります。それと原発の安全神話を作り上げた  
ように公的情報にも問題があつて、コロナ禍でもまた翻弄されているよう  
に感じます。自選はいかがでしょう。

成田

私は、自分の作品を作ることに関しては、コロナ禍の影響はありません。次の句のほかに、あと一句か二句かしかコロナ詠はないです。

葦汁やTVに世界地図真つ赤

成田 一子  
〔滝〕五月号

白魚見ゆ流水に目を洗ふとき

同  
〔滝〕五月号

厳戒の夜の八朔をむしり喰ふ

同  
〔滝〕五月号

一句目は、自肅中で朝から葦を刻んだりして、ご飯の支度中にワイドショーで世界地図が映っていて出来た句です。二句目は、ウイルスが目から入りますと言うのを見て、買い物から帰ってきて少し怖くなって、顔を水道に近づけて洗った時に、洗面所の側に小さい窓から光が入って水がキラキラ光って。その時白魚が見えたような気がしたのです。非常事態だからこんな風景が見えるのかと、俳句をやっているから白魚という言葉が出てきたのかなと思いましたが。三句目は、晩酌の後にはどうしようもない気持ちで八朔をむしって食べました。むしり喰ふというのは普段使われない言葉遣いで少し強いのですが、やりきれない気持ちからできた俳句です。

小田島

成田さんの葦汁の句は、実景だったんですね。「葦汁」が一句にとても効いています。では、浅川さん、お願いします。

浅川

僕は、ウイルスの恐怖感や不安感を訴える力がある句をあげます。

鳥帰る時疫に沈む都会見え

中嶋 鬼谷  
〔禾〕六号

キルスとはお前か俺か怖や春

高橋 睦郎  
〔俳句あるふあ〕夏号

都市封鎖すり抜け猫としゃぼん玉

神野 紗希  
〔俳句〕六月号

一句目、目に見えないウイルスを都会の中に沈んでいると言って視覚的にイメージしやすくしています。また「沈む」というのが社会的影響をう

まく言い得ていると思えました。二句目は、誰が感染しているかわからない、もしかすると私が感染しているかもしれないという不安感があります。

神野さんの句は、「すり抜け」というのは猫としゃぼん玉だけではない、ウイルスもウイルスを持ち歩く人間もです。詩として重みがあります。パ

ンデミックに限定しなくても鑑賞できる強さがあります。

小田島

高橋さん句、私も最初の頃、自分が持っているかもしれないという気遣いですごく疲れてしまったことを思い出しました。自選はいかがですか。

浅川

自分の句作はコロナ禍でもあまり変わりません。作品というのは自分の影のようなものだと思うので、当然社会環境が変わればその影響は

でてくるけれども、句作の本質は変わらないかなと思います。

ただ、静かな場所で俳句を作る方が好きなので、俳句を詠む場所である

大学近辺は人が少なくなつて、嬉しいなというのがあります。

ずれてゐる総理のマスク四月馬鹿

浅川 芳直  
〔仙臺俳句会・四月 非公開〕

初雪のこぼれくる夜の広さかな

同  
〔駒草〕三月号

数へ日のもう亡き人の年賀状

同  
〔駒草〕四月号

一句目は、兼題が「四月馬鹿」だったので、無理やり詠んだということ

ろです。この直後に、岩手の白濱一羊さんがへずれてゐる総理のマスク万

愚節を出していました。社会詠の類想性というところであげています。

二句目、コロナ禍で会えない人々も初雪を見ているんだらうなと思つて作

りましたので、コロナ禍の影響が多少はあります。三句目は、通信句会に

なつて会えなくなつていううちに、亡くなられた方が何人かいらつしやい

まして、数え日になつて年賀状の準備の際に死別したということを改めて

感じたという句です。

あと、通信式句会だと、決まった時間で集中して選句するというのがな

くなり、選句がやや雑になつていのではないかと反省しています。

成田

初雪の句、数え日の句は、コロナ詠じゃなくても十分鑑賞できてとても作品として高いですね。やはりコロナを詠んでいながらもそれ以外でも鑑賞できるというのが作品としての高さにつながってくると思います。

小田島

浅川さんの「四月馬鹿」の句は、仙臺俳句会（超結社句会）を夏雲システムに切り替えるためのテスト句会でした。この一年で、全国から参加があり嬉しい一方で、ネット上に同じような句会が飽和状態となっていて、その句会にしかない魅力がないと淘汰されていくのではとも感じています。私も三句あげてみました。

休園を知らぬ子パンダ春の雨

赤羽根めぐみ

（「軸」六月号）

嘴のかほで向き合ふ春の宵

鴉田 智哉

（『エレメンツ』）

マスクして墓標のごとく並びぬる

（『わたしの一句』平成二十五年）

一句目、おそらく動物園が感染防止のため閉まってしまい、パンダの子どもが人間が来ないのを不思議だと思っている句です。イノセントな存在とウィルスの不安との対比に惹かれました。二句目は、嘴というのはマスクかもしれないですが、コロナ詠で考えるよりもシュールレアリスム的な不安感の漂う句として鑑賞してもいいと思います。

大場さんの句は、震災詠ですから、コロナ禍以前の句です。震災当時、片付けなどいろんな場面でマスクをしていました。今は、マスクも墓標も別な意味を帯びていますが、いずれにしても痛切さがあります。

浅川

少し話がずれるかもしれませんが、総合誌のコロナ特集や今回の座談会もそうですが、なぜみんなコロナウイルスを俳句にすると聞いたがるのだろうと思います。僕の仮説ですが、みんな我慢すれば乗り越えられるという考え方が根底にあるんだと思います。震災時もそうでした。そういう同調圧力のような呪縛はもういいのではないのでしょうか。

小田島

そうですね。そういう圧力は、震災時は特に強かったです。その論点は見過ごせないので、次の議題にもかかわってくると思います。

三 今の現状をどう切実に詠んでいるか、俳人の態度が問われる  
小田島

コロナ詠や震災詠を社会詠と括るのは少し大雑把すぎますが、社会詠についてのお考えを讀者、作者の両面からお伺いできればと思います。

坂下

宮城県俳句協会で、今年三月に刊行しました『十年目の今、東日本大震災句集 わたしの一句』は、一二〇〇句くらいの応募がありました。震災を風化させないための大事な取り組みであるという声が多く寄せられました。読みながら涙が流れてきましたという葉書もいただいたりしています。詠むことで語り継いでいくということが必要なのだと思います。

ただ、句集の募集にあたって声掛けをしましたが、震災句は作れないという方も何人かいらっしゃいました。

小田島

浅川さんと私も編集に携わりましたが、応募の方の原稿には、句だけでなく、そのときの状況や想いが綴られていましたね。成田さんは、カルチャーセンターでの講師もされていますが、いかがでしょうか。

成田

カルチャーセンターでは初心者の方がとても多いです。震災から十年経ち、生々しく感情をぶつけた俳句というも出てきます。私は、作品としてはいくらでもアドバイスを提案できるので、いつも葛藤があるところですが、訴えた俳句には踏み込めないのです。そういう衝動は誰にも止める権利はないと思うからです。

作者としてですが、能動的な態度では詠んでいません。蛇口から水がほとほと溢れてくる、その一滴が、結果的に社会詠とか震災詠になっているのかなという印象です。震災の時も私は全然詠みませんでした。自分が俳人である以前に生活者であるという部分が大きいんですね。

小田島

震災詠もコロナ詠も無理に詠むものでもないし、逆に詠んではいけないというものでもないですね。浅川さんはいかがですか。

浅川

社会詠というと、戦後議論が活発にされた沢木欣一あたりの社会性俳句のことをイメージしました。

読者としてですが、自然でも社会でも作者の人生や物の見方でもいいのですが、大きな背景を感じさせる句を読みたい。その中でパンデミックの状況を思わせる言葉が入るのは自然なことと受け止めます。

一方で、「コロナ」「マスク」と流行りの素材を詠むだけでは、軽佻浮薄と見える俳句になるのではと思います。社会的な意見表明をしたいだけなら、俳句ではなく、散文や別な方法でものしたほうがいい。

俳句というのは具体的な議論には向かないので、そんなに深く社会問題として考えなくてもコロナ詠は読めてしまうわけです。イデオロギーにのったり、素直な感情表現を詠むだけで詩としても強度のあるものになります。ただ、俳句に詠んだというだけで、社会問題について何か考えたかのような錯覚を持つ恐れがあるのではないかと思っています。

小田島

軽佻浮薄かどうかは句からはわかりづらいですが、新興俳句での戦火展望俳句が、新しい素材として戦争を詠んだ一面があるとして批判されたことを思いました。作者としてはどう思われていますか。

浅川

自分の俳句の詠み方からふれない芯の通った作句でありたいなと思っています。素材が自分の中を通過して、消化しているかというところです。詠みたいときに自然と入ってくると思います。

小田島

社会詠を詠むことに坂下さんは積極的で、成田さんと浅川さんは自然と句に入ってくればというところですね。渡辺さんは、コロナ禍の現状を多く詠んでいらつしゃいますが、いかがでしょうか。

渡辺

社会詠から議論すると苦しくなりますね。俳壇史のなかで議論するには、

社会詠、戦争詠、震災詠とか括られるのかと思います。最初から社会詠を作ろうという人はほとんどなくて、結果としての社会詠です。

浅川

渡辺さんの句集『赫赫』のあとがきにある「震災への記憶の内面化」には、作者なりの昇華という意味があると思います。それがそのまま作ると素材として取り入れただけと見られると思うのですが。

渡辺

その通りだと思います。有名な話ですが、戦争の時、高浜虚子が「俳句は何の影響も受けませんでした」と述べています。そこからコロナ禍から何ら影響受けませんでしたと思うのは、それはそれでいいと思いますが。その俳人の生き方として、今の現状をどう切実に詠んでいるのか、どう内面化したのか、その態度については、大いに議論すべきではないかと思っています。あと、詠んだ句が上手く詠めたのかどうかの問題になると思います。

坂下

ただ、震災詠は、建物の倒壊や津波など具体的な景というものがよくわかると思うのですが、コロナ詠は形のない、自分が自粛するなど精神的なものが多く、作るのが難しいと感じています。

渡辺

そうですね。当事者としては罹患された方とか医療従事者が一番切実なはず。自分たちは、ウイルスに対する恐怖感しか詠めない、なにか苛立ちがあります。俳句には、諧謔とか、現実をすらす力があります。この様な力をどう生かすのかも俳句の可能性の一つとしてあると思います。

小田島

皆さんのお話を伺って、表現においては、詠むか詠まないかも含めて、人それぞれであるけれども、作品が心から発動しているかどうかが一番大切なことだと感じました。

#### 四 宮城県の俳壇の今後

小田島

最後に俳句の未来を考えるとという点で。宮城県の俳壇の良さは、宮城県俳句協会を中心とした結社の垣根を超えて意見や情報など交換できる場が

あることですが、今後についてご意見をお聞かせください。  
成田

宮城県は、他の県に比べても実力のある俳人が多く、全国的にも刺激ある存在の県なので、このまま全国へ向けて発信していけたらいいなと思っています。

それから、宮城県の俳人という点、どうしても「被災者」というものが付きまとうてきてしまうということがあります。どこに住んでいるというのは関係ないし、ネットなどで積極的に発信していくことが解決につながっていくのかなと思います。

坂下

私は、問題点を考えました。全国的だと思えますが、各会員の減少、高齢化があります。解決策として、結社横断的な吟行会、小中学校・高校での啓蒙活動、俳句サークルへの支援もいいと思います。

二回ほど俳句甲子園全国大会を観に松山に行きました。全国大会に進出できる高校が、宮城県でも出てくるといいなと思います。塩竈ジュニア俳句大会のようなことを宮城県でできないかと。

宮城県俳句協会の入会金の無料化など、いろいろなことをして取り込んでいかないと先細りなのかなと思います。

浅川

ただ、入会金無料だけでは、若い方たちに向けた無料の公募やコミュニティがたくさんあるので、なかなか難しいと思います。それより、今の会員の方たちにとって、より魅力ある場を提供することが重要ではないかと思っています。協会会報に、総合誌に掲載された作品の転載や会員の紹介をすることで、会員同士の距離感を近づけることができると思います。

小田島

若手にあまり期待しないというのわかります。少人数化の傾向に合わせて、一人一人がより充実できるシステムに変えていくのも一つかと思えます。例えば、このような座談会や勉強会もいいですね。ありがたいなと思いました。

テープ起こし…吉沢美香（小熊座、むじな）、小田島渚（銀漢、小熊座）

## 編集室から

■令和三年度の総会資料掲載しました。書面による議決いただきましたが、ご確認下さい。

■百年前のスペイン風邪、日本では約四十万人が犠牲となり、終息には三年の歳月を要しました。当たり前の日常を取り戻すために、ワクチンの接種、治療薬の開発が待たれます。

■国会では、「新型コロナウイルスの感染爆発中でも五輪を開催するか」を問われ、「やぎさん答弁」を繰り返す一国のリーダー。モリカケ桜などなど、説明責任を果たさない政治が続き、政治家から「言葉の力」が失われています。

■今回は、「新型コロナウイルス以後の俳句」と題し、コロナ禍の俳句への影響やコロナ詠合評、宮城県の俳壇の現状、今後の課題等についての座談会を特集しました。座談会では、誌上句会やYouTube配信などコロナ禍における句会の工夫が紹介されています。又、会員同士の距離感を近づけるために、会報に会員の紹介や記事掲載などの提案もありました。会員の皆さんからの提案をお待ちしています。

(遊)

発行所 宮城県現代俳句協会

発行人 渡辺誠一郎

事務局 千九八九―二三五―

宮城県亶理郡亶理町北新町三二―二三  
坂下遊馬 方

電話〇二三三―三四―一七八―